

大久保の人との別れ

- 1、1862年4月 **寺田屋事件 精忠組仲間と袂を分かち**
薩摩尊攘派の過激派が暴発寸前となり、大久保は一度説得したが失敗した。そこで、暴発を恐れた久光が討手を出して9名惨殺した事件である。
かつての精忠組の同志もいたが、積極的に久光を諫めたという事実はない。
- 2、1864年1月 **参与会議決裂 慶喜との訣別**
公武合体運動で盛りたててきた慶喜観が変化する。これより約2年にわたる慶喜との闘いが始まる。
- 3、1864年末 **「朝廷これ限り」**
尊崇していた天皇・朝廷を強く批判する。
- 4、1869年1月 **版籍奉還 71年7月 廃藩置県 久光との乖離**
自ら接近して取りたてられ、自分を信じて公武合体運動を共に苦心した島津久光、大いに怒る。(1970年12月久光に協力求め断られる)
- 5、1873年8月 **征韓問題 西郷との別れ**
幼少の時から遊び学び、貧困時代は助けられ、共に明治維新の偉業をやり遂げた西郷隆盛とこの後会うことはなかった。
- 6、1876年8月 **秩禄処分 木戸の離反**
禁門の変、第一次長州戦争を経て、薩長同盟を結んだ相手方である木戸孝允とは、新政府発足以降意見の対立がしばしば起きた。しかし、新国家を築くという目標のために結局は手を結んできた。しかし、このとき木戸は参議を辞任し病氣も進行したため再び共に机を並べて政務を執ることはなかった。
- 7、1877年 **西南戦争 薩摩士族との戦いと別れ**
大久保が上り詰めることができた最初の基盤が下級士族の集団である精忠組であった。この組織あればこそ久光に一目置かれて登用されるきっかけとなった。幼少の頃から郷中で生活を共にしてきた仲間、故郷の仲間たちと訣別したのである。